



# 指令「ツシマニアを増殖させよ」 島おこし協働隊活動レポート 特別編



11月24・25日、東京池袋サンシャインシティで、日本全国の離島が一同に集まるイベント「アイランダー2012」が開催されました。このイベントは、国土交通省と（財）日本離島センターが主催するもので、今回で20回目の開催。北は北海道の礼文島から南は沖縄県の与那国島まで約190の離島が出展し、2日間で約1万2千人が来場しました。

数ある島の中で、異彩を放っていたのが対馬のブース。昨年に引き続き、出展の企画準備や当日のスタッフを務めたのが、現在対馬市内で大活躍中の対馬市島おこし協働隊員です。



半年前から、離島振興・観光物産の担当者とともに、対馬の“ファンづくり”“お客様づくり”のために準備を開始。「島暮らしで感動した出来事」や「対馬の資源や特産品を都市住民に対してどのように魅力的に伝えられるか」を、都市出身の若者の視点で、昨年よりもさらなる工夫を凝らしました。



ブースでは、対馬の魅力紹介や特産品の販売のみならず、島おこし協働隊員が企画開発に携わった特産品の販売（レザークラフト・ブルーベリーサイダー・佐護ツシマヤマネコ米など）や、地域おこしの実践活動を紹介。来場者の中には活動に共感して数時間も話を聞き、「対馬に実際に行ってみたい」「移住したい」という方もいらっしゃいました。また、対馬出身者や対馬ファン・対馬の活性化を応援するサポーターのみなさんも多数来場していただきました。



木村隊員による移住相談



「つしまソムリエ」の王理恵さんも応援に



各離島の首長も隊員の活動に興味津々



ステージでは、対馬の魅力と島おこし協働隊の活動を発表。また、対馬では“盛り上がること間違いなしのイベント「餅まき」”を隊員たちが再現。対馬の餅と他の離島への呼びかけで集まった特産品を一緒に投げ、会場は興奮のるつぽに!!  
こうした会場での様子は、来場できなかった方々に向けてインターネットでライブ中継。隊員たちのアイデアや知識・技術、対馬での体験をフル活用し、他の島が羨ましがれるほどの一際目立った対馬ブースでした。

アイランダー2012を通じ、コアな対馬ファン＝「ツシマニア」を確実に増やすことができました。対馬の特産品の通信販売のお客様が首都圏に多いという実態を踏まえると、首都圏での知名度向上やイメージ形成は、対馬の活性化にとって大変重要です。

最近の消費者は、物そのものの価値のみならず、生産者や生産地の姿や活動に共感し、多少高くても購入すると言われています。対馬は、離島の中でも資源が豊富で、その質も高い評価を受けている島です。

島おこし協働隊員の活動を通じ、対馬のブランド力向上が期待されます。

## 全国から熱い視線が!! しまづくりサミット2012



アイランダー開催にあわせ、11月23日に「しまづくりサミット」が開催されました。改正離島振興法の施行を前に、離島それぞれが本来の力を発揮し、「離島に住み続けたい、住んでみたくなる島づくり」の実現のため、「交流促進」「人材育成」「地域教育」「移住定住」をキーワードに離島住民同士で意見交換を行いました。その事例報告として、木村幹子隊員が上県町志多留地区における集落再生の取り組みを紹介。多くの参加者・関係者の関心を集めました。

## 力作揃い!! 文化祭で公民館講座作品を展示

今年の公民館講座では、山下遼隊員がイノシシ・シカ革を用いたレザークラフト講座を、松野由起子隊員が対馬の魅力を感じた消しゴムはんこ講座を開催し、市民の皆様と作品を作り上げました。山下・松野隊員も驚くほどの力作は各地区文化祭で展示されました。



## 単行本『僕ら地域おこし協力隊』で紹介されます

対馬市島おこし協働隊は、総務省の「地域おこし協力隊制度」を活用し、財政支援を受けています。現在、全国173の自治体で473名の地域おこし協力隊員が活躍中。またこの秋、フジテレビ系ドラマ「遅咲きのヒマワリ」では隊員が主人公として登場するなど、活動に対する社会的な注目度が高まっています。

全国で活躍する隊員たちの素顔と実際の活動を紹介します。学芸出版社が12月14日に単行本『僕ら地域おこし協力隊』を発行。対馬市島おこし協働隊員も30ページにわたって紹介されています。つしま図書館にも入荷予定ですので、是非ご覧ください。



何と、本の帯には木村幹子隊員が!